

赤城南麓交流村だより

<http://www.hurusato-miyagi.jp>

■2004年 7月 VOL.1

■編集・発行

〒371-0294

群馬県勢多郡宮城村大字鼻毛石 1426-3

宮城村ふるさと地域づくり推進協議会

(宮城村役場商工観光課内)

電話 027(283)2131 FAX 027(283)2358

E-mail omoide@hurusato-miyagi.jp

宮城村ふるさと地域づくり推進協議会 通称「赤城南麓交流村」が誕生

農村地域の自然や景観、歴史、暮らし、文化などの地域資源を生かし、交流・ふれあいを通じ元気に輝く地域づくりを行う宮城村型グリーン・ツーリズムを推進します。

六月二十二日(火)、宮城村商工会館会議室において、宮城村ふるさと地域づくり推進協議会の設立総会が開催されました。

この宮城村ふるさと地域づくり推進協議会は、村の地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムを推進することで、地域の活性化を図ることを目的として設立されたものです。

宮城村の美しい景観の形成、歴史・伝統文化の再生、地域特産物づくりなど魅力ある地域づくりを進め、それを都市住民に情報発信することにより交流を図り、さらには、交流の促進を通じて交流ビジネスを育成し、元気ある地域を目指していきま

す。設立総会では、協議会の規約が承認され、続いて次の役員の方が選出され承認されました。

会長	櫻井敏道氏
副会長	阿久澤徳男氏
副会長	小堀長夫氏
監事	細井正氏
監事	石原芳子氏

協議会の会長に選任された櫻井敏道村長は、「十二月五日に前橋市に合併となり我が宮城村は消滅しますが、ふるさと宮城は永遠に存続するものであり、合併するからこそ、地域住民一人一人がふるさとづくり、地域づくりに積極的に関わっていくことが重要です。そのためキーワードがグリーン・ツーリズムであって、みなさんと共に特色ある地域づくりを進めてまいります。」と就任のあいさつを行いました。

その後、総会は桜井会長が議長となつて進められ、平成十六年度事業計画、平成十六年度予算がそれぞれ決定されました。

事業計画と予算についての詳細は、次頁でご紹介いたします。

また、この協議会を村内・村外の多くの方に親しんでもらいたいことから、協議会の通称を「赤城南麓交流村」とし、今後様々な取り組みを行うっていくことが決定いたしました。



総会で役員に選出され、あいさつをする桜井会長、阿久澤副会長、小堀副会長

平成十六年度 事業計画

赤城南麓交流村の平成十六年度事業方針は、農村景観、自然環境、歴史・伝統文化、地域特産物などの地域資源を活かしたグリーン・ツーリズムの推進により、魅力ある地域づくりを進め、地域住民そして村外の人々との交流をつうじて地域活性化を図ります。

平成十六年度は十二月の前橋市との合併を控える中で、合併後も宮城らしさを持った特色ある地域づくりとして、宮城型グリーン・ツーリズムの普及啓発活動を進めながら次の事業に取り組みます。

一：グリーン・ツーリズム推進事業

- (1) グリーン・ツーリズム啓発事業の実施
- ・ 研修会や先進地視察研修等を実施し普及啓発を行います。

- (2) グリーン・ツーリズム実践事業の実施
- ・ 会員が実施するグリーン・ツーリズム事業への支援を行います。

・ 村内の関係機関、団体と連

携した都市農村交流事業の実施

- ・ 地域資源を活かしたグリーン・ツーリズム拡大事業の実施

- ① 農業・農村資源を活かした交流体験

- * 体験農園、観光農園などでの体験プログラムの推進

- * 地域資源を活用した特産品づくりプログラムの推進

- * 農産物直売所や地元の食材を利用した郷土料理などの食体験プログラムの推進

- ② 農村を舞台とした生涯学習の推進

- * 教育的効果の増進を図るプログラムの推進
- * スポーツ交流プログラムの推進

- * 歴史・文化資産を活用した学習プログラムの推進

- ③ 花を楽しむフラワー・ツーリズムの推進

二：情報発信事業

- (1) 情報誌による地域情報発信の実施

- ・ 地域の自然、歴史、文化、観光等を紹介する総合情報誌を村外向けとして発行

- ・ 村内向け普及啓発活動として協議会だよりの発行

(2) ホームページによる地域情報発信

- ・ 地域の様々な情報を、ホームページで発信します。

平成十六年度 予算

赤城南麓交流村の平成十六年度歳入歳出予算は、総額で三百七十万円です。その内訳は次のとおりです。

【歳入】

村からの助成金

三百七十万円

【歳出】

一：協議会運営費

五十五万円

二：事業推進費

二百万円

三：情報発信費

百十五万円



(財) 育心会による田植え体験

「赤城南麓交流村」では 会員を募集中です！

赤城南麓交流村（宮城村ふるさと地域づくり推進協議会）では、ただ今会員を募集しております。

個人でも団体でも、村民の方、村内の団体、そして、会長が許可する方であればどなたでも入会することができます。

入会を希望する個人・団体の代表者の方は、所定の申出書を提出する必要がありますので、赤城南麓交流村事務局までご連絡ください。

◆赤城南麓交流村で宮城を、地域を、楽しみましょう！

赤城南麓交流村事務局（宮城村役場商工観光課）

電話 027-283-2131 FAX 027-283-2358

足立区民約四〇〇人が来村

赤城南面千本桜まつり



東京都足立区と宮城村は、「宮城」という同じ地名が縁で、宮城村立宮城小学校と足立区立宮城小学校が姉妹校として交流がはじまり、どんぐりの森や足立風まつりなどのイベントへの参加など交流の輪が広がってきており、今回、そうした交流の中から実現したものです。

十一日(日)のイベントは、

四月十一日(日)、赤城南面千本桜まつりには、満開の桜を楽しもうと約二万人の観桜客が訪れ、四月二日から始まった桜まつりの期間中一番のにぎわいを見せました。

午後十二時、交通渋滞で予定の時間より一時間遅く、千本桜の隣りの赤城高原牧場クローネンベルク駐車場に観光バス八台が到着しました。

この観光バスは、足立区に避難している三宅島の被災者の方々を支援することを目的に、NPO 足立フォーラム21が企画した千本桜お花見ツアーで、北千住駅から電車とバスで宮城村までやってきた東京都足立区民約四百名の方々です。

宮城村から郷土芸能として「上州宮城和太鼓桜吹雪」の演奏と「みやぎ桜乃舞」によるよさこい踊り、そして、華八木会による八木節、だんべえ愛好会によるだんべえ踊りが、そして、足立区からはシャンソン歌手の白木ゆう子さんによるアカペラシャンソンと足立区出身のシンガーソングライター、安藤秀樹とwith friendsによるチャリテイライヴで桜並木の特設会場は盛り上がりました。

また、もう一つのお楽しみとして、宮城村産の野菜で仕込んだ豚汁、そして山菜おこわ、舞茸ご飯、マスの塩焼きを味わっていただきました。

今回のイベントでは足立区と

の交流の他に、三宅島被災者への支援と言うことで、村内の多くの皆様と観桜客からのご協力により七十八万五千四百八十九円もの義援金が集まり、五月十五日、小堀長夫桜まつり実行委員長から杉山足立三宅会会長

代理に義援金が直接手渡されました。杉山足立三宅会会長代理から「千本桜の桜の苗と足立の桜の苗を三宅島に植えました。わずか二本の桜ですが、復興の際にはぜひ三宅島にお越しください。」とお礼の言葉が述べられ、三宅島の方々と交流が芽生えました。



義援金を手渡す小堀実行委員長

大分県と言えば「一村一品」運動が有名ですが、その発祥の地と言われているのが大山町農業協同組合です。その大山町農協では、地場で収穫された、安全で健康な農産物を使って、農家もてなし料理バイキング「オーガニック農園」を展開しています。

農家もてなし料理バイキング 大分県大山町農協 オーガニック農園

このオーガニック農園とは、バイキング方式のレストランのことですが、レストランと言っても特別な料理を出しているのではなく、お祝い事などの時に大山町のどの家庭でも作っていた料理(季節の煮物料理や山菜料理、麺類、揚げ物、漬け物、など)をもとに100種類のメニューをつくり、その内50〜60種類の料理が毎日バイキング方式で出されています。

また、料理を作っているのは、もちろん農

家の奥さん方で、交代で調理をしています。現在、大山町と福岡市内の2店舗を展開していますが、どちらの店も大好評で特に女性に大人気で、まだまだ店舗を増やしていく計画だそうです。

私たちがおじゃました平日の昼食時も、すぐに満席となりお店の入り口では順番を待つお客であふれていました。

今、世界中でスローフードが注目されています。日本でもスローフード運動とあわせて食育運動が各地で叫ばれています。宮城村でも素朴な手作り料理に注目してはいかがでしょうか。

大分県大山町農業協同組合ホームページ
<http://www.oyama-nk.com/>

地域の情報を発信する「赤城南麓交流村ホームページ」

<http://www.hurusato-miyagi.jp>

あなたからの情報をお待ちしております！！

赤城南麓交流村では、地域の様々な情報を発信するホームページを開設しています。

このホームページは宮城地域内の様々な情報を日記形式で紹介しているもので、その時々宮城ならではの情報を掲載しております。

これまでホームページに掲載した情報は、桜情報として赤城南面千本桜、満開の苗ヶ島金剛寺のシダレザクラや鼻毛石集会所の桜、そして、赤城温泉郷付近のヤマザクラのほか、梨の花やホタルなどその時期でしか見ることのできない自然や宮城からの夕焼などの景色、また、特産品情報、イベント情報などまさしく宮城の魅力を発信しています。

そこで、地域でのイベントはもちろんのこと、“ぜ

まつりでは、オオムラサキが森に帰ってきってくれることを願って放蝶などが行われたほか、長野県青木村の子どもたちも特別参加し、どんぐりの森で自然観察会なども行われました。

六月二十七日(日)、群馬国蝶オオムラサキの会主催で、第三回みやぎオオムラサキまつりが、運動公園荒砥川沿いにあるオオムラサキ飼育ハウス前で開催されました。オオムラサキは里山に生息している蝶々で、昭和四十八年に発刊された村誌にもオオムラサキが屋敷林に生息していると書かれています。今では残念ながらその姿を見ることはほとんどありません。

ひ多くの方に紹介したい”というものがありましたら事務局までご連絡いただければ取材に伺います。また、ご自身のデジタルカメラで撮影したもので結構ですので、気軽に事務局までお問い合わせください。

宮城の良さをホームページを使ってどんどん発信していきたいと考えていますので、皆様からの情報をお待ちしております。

赤城南麓交流村ホームページのアドレスは<http://www.hurusato-miyagi.jp>です。

ぜひご覧ください。

交流村トピックス

オオムラサキまつり



みんなでどんぐりの森を自然観察

荒砥川ふれあい遊歩道



参加者でメダカを放流

田植え体験

五月二十二日(日)、荒砥川沿いに整備中だった遊歩道が披露目となりました。この遊歩道は、ぐんまフラワerpark、総合運動公園、どんぐりの森をつなぐ遊歩道で、総合運動公園とどんぐりの森の区間が完成したものです。当日は、約二十名の子どもたちにより、遊歩道沿いの池にメダカとタナゴの放流も行われました。荒砥川沿いの自然をゆっくりと楽しんでください。

六月十九日(土)、二十日(日)に、(財)育心会による田植え体験が今年も行われました。二日間で、のべ七十人を超え

る参加者により、約三反半の田に苗が植えられました。参加者からは、「疲れたけど楽しかった」「お米に対する意識が変わった」などの声が聞かれました。育心会は、米作りと交流を通じて、農業や食糧問題、食の安全に対する意識を高めてもらうことを願っています。

編集後記

▼宮城村ふるさと地域づくり推進協議会が設立され、「赤城南麓交流村だより」をお届けすることができました。▼「グリーン・ツーリズム」あまりなじみのない言葉ですね。その意味は、農村を楽しむ余暇活動などと言われてますが、今ひとつピンとこないのが正直なところでしょう。▼農村と言うと不便な所というイメージがあるかもしれませんが。確かに都会に比べれば不便な所はたくさんあるのは事実ですね。でも、都会にはないすばらしいところもたくさんあるのも事実です。▼そんな所を発見し皆さんと共有していきたい、それがグリーン・ツーリズムかもしれません。

事務局